

令和5年度 第3回佐賀市農業・農村活性化懇談会 【質問・意見】

令和5年11月20日（月）10時00分～11時42分

佐賀市大和支所3階第四会議室

【議事 第4次農業振興基本計画（案）について】

	<p>第1章 佐賀市農業を取り巻く情勢（P1～P9）</p>
委員（意見）	<p>P6の、佐賀市の農業の特徴の（1）の2つ目の点の箇所に野菜の列挙がしてあるが、そこにピーマンを入れてもらいたい。理由として、三瀬地区では列挙されている野菜がなく、ほとんどピーマンしか栽培されていない。</p>
事務局	<p>追加したい。</p>
委員長（質問）	<p>難しい用語が出てくるが、用語集はどこに添付するのか。</p>
事務局	<p>現計画と同様に、巻末にまとめて用語集とする予定である。</p>
	<p>第2章 佐賀市農業の目指すべき方向（P10～P14）</p>
委員長（質問）	<p>全体を象徴するスローガンのものとして、将来像を3案提案されているが、前計画ではどのようなスローガンであったか。</p>
事務局	<p>現計画の将来像については、「人を結び、未来に向かうさがん“農”」としている。</p>
委員長（意見）	<p>将来像については、すべての説明を受けた後に決定したい。</p>
	<p>第3章 基本目標を達成するための施策・事業（P15～P44）</p>
委員（意見、質問）	<p>佐賀市が、6次化を推奨していて、自分たち農家もいろいろところでイベントをしたり、商談をしたりしていた。その中でもバルーン大会は、全国からのお客さんが来るため良い機会であったが、</p>

事務局	<p>5日間と長い期間であったため、昨年からは参加していない。今までは“いいモノさがし”のブースで出店していたが、今年は参加の呼びかけすらなかった。それを担当者に聞くと、「申込みが無かったので、開催しない」。また、「佐賀市はPRする場を準備しないのか」と聞くと無言であった。</p> <p>今までは、生産物を預かり、こちらのスタッフで販売をする委託販売としていた。今年度は期間中、可能な限り対面販売をしてもらう形に変更し、実際に売り場に立って、対面販売をしてもらう旨の案内を出した。しかし、5日間通しでの対応は難しいであろうことから、そこについては相談を受ける、とのことも記載していた。対応した者の説明が足りず申し訳ない。</p>
委員（意見、質問）	<p>職員の異動があるのは仕方ないが、引継ぎが上手くいっていないのではないか。時間が経ってから手続きが出来ていないと言われ、修正する必要があった。</p>
事務局	<p>転入、転出する職員間の引継ぎは文書により行い、その結果は、課長にも報告される。今後は、適切な引継ぎが行われるよう注意していきたい。</p>
委員長（意見）	<p>商談会や首都圏での販促、特設コーナーや輸出、イベントでの販売促進。そういったものに対する戦略会議を関係者で行ったかどうか。例えば、年度中に1回、来年度であれば今年度中に行うなど、そういう体制づくりを行えば、行政と生産者で意思疎通が取れるのではないか。</p>
事務局	<p>（意見として承る）</p>
委員（質問）	<p>市からは“6次化を行うのはどうか”とよく言われるが、生産することで、そこまで手が回らない。農家は作ることに専念し、加工業者を市が結びつけることはできないのか。</p>

事務局	<p>農業振興課にも、6次産業と農商工連携のコーディネーターを1名配置している。農家が生産から加工、販売まで行う6次化ということが難しいことは理解している。ただ農家と業者を繋ぐのではなく、どちらのニーズにも応えるように行うことが農商工連携だと思っている。</p>
委員長（意見）	<p>次期計画の中に「コーディネーターを活用し」といった文言を記載したほうが良い。</p>
事務局	<p>追加したい。</p>
委員（意見）	<p>農家出身で他産業に従事後、Uターンして就農する者の割合が、文面上では半数以上となっているが、計画（案）に記載のグラフでは39%となっている。</p>
事務局	<p>文章とグラフの整合性が取れていないので、修正したものを記載する。</p>
委員（質問）	<p>新規就農者を150人にする目標と記載があるが、そのサポート体制はどうなるのか。</p>
事務局	<p>まず、毎年30人程度の新規就農者が就農されており、5年間で150人という目標値としている。</p> <p>新規就農者は、国の制度等を活用する人、トレーニングファームで研修される人、親元就農する人がいることから、市として何らかのサポート、支援は可能だと考えている。</p>
委員長（質問）	<p>2024年から2028年までで延べ150人を目指すとのことだが、指標を検証する実数値はないのか。</p>
事務局	<p>令和元年度から令和5年度までの実績値を入れる予定である。現</p>

	<p>時点では、今年度の実績がまだ出せない状態であるため、記載できていないが、まとめ次第記載したい。</p>
委員長（質問）	<p>佐城地区農福連携推進協議会とあるが、どういう組織なのか。障がい者施設、NPOのような組織は加入しているのか。</p>
事務局	<p>佐城地区の市町の農業部門と福祉部門の担当職員と JA、福祉関係施設がメンバーになっている。</p>
委員長（質問）	<p>農福連携にあたり、農業分野で“活用する側”の人が圧倒的に多く、福祉側のニーズに合っているかという議論が良く聞かれる。就労支援施設などの農福連携を取組む団体、法人の参加が無いとマッチングしにくい。この協議会はどうなっているか。</p>
事務局	<p>当該協議会には、農業者側と福祉側のニーズを繋ぐコーディネーターを配置している。</p>
委員（質問）	<p>以前、ハウスでニンニクを栽培していたが、異常気象が続いたので、倉庫内で冷暖房を入れながら栽培することとした。今までは交付金があったが、対象外になると言われている。維持費がかかり、困っている。強い農業・農村づくりとあるが、その場の現状ごとに対応を変えるべきだ、と思うがどうか。</p>
事務局	<p>国の交付金は対象が田でなければ交付されない。 状況を確認するため、個別に対応したい。</p>
委員長（質問）	<p>カモによる麦の食害対策でテグス設置とあるが、他の野鳥が引っ掛かるというのは確認されているのか。東与賀ではラムサール条約登録湿地があるが、テグス設置は難しいと思うがどうか。</p>
事務局	<p>昨年度に県と連携して久保田地区にて実証実験を行い、効果が検証されたので、設置地域を拡大していく方針である。カモ以外の鳥</p>

	<p>やラムサール条約湿地への影響については、佐賀大学農学部と共同研究していく。</p>
委員（意見）	<p>消費者からの意見として“農産物の規格が不揃いである”と挙がっているが、私も店で並んでいるのを見ると、食べられるところもないような野菜が、高い値段で並んでいるのを見た。ファームマイレージ運動は、最初は参加協力店を増やすことが必要だったとは思いますが、今は質を確保できるように見回りをするなどの取組が必要ではないか。</p>
事務局	<p>協力店の商品の状況について3か月に1回見回りを行っている。主に、旬の農産物の出荷状況を確認しているが、劣化しているような商品については店に声がけを行う。今後も定期的に見回りを行い、改善をしたい。</p>
委員長（意見）	<p>数値目標に“農業体験の参加者数”とあるが、みそ作り体験などの農業加工体験なども含めたほうが良いのではないか。</p>
事務局	<p>現状の数値も、そういったものを含めた数値としているので、農業体験等と修正したい。</p>
委員長（質問）	<p>すき込みなどを行ったわらの有効利用の割合を100%にするにあるが、稲わらをラップして畜産農家に渡す事例もある。それは“すき込みを行ったわら”ではないが誤解を招かないか。</p>
事務局	<p>畜産農家などへの譲与、取引を含めてのことである。「わらの有効活用」などの表現に修正したい。</p>
委員長（質問）	<p>数値目標にある“みんなの中山間チャレンジ”というのは県の事業で、計画期間の5年間は続く事業なのか。</p>
事務局	<p>県の10か年計画に数値目標として挙がっていたため、市の目標</p>

	にも挙げている。
	第4章 地域別振興方向～最後 (P45～P50)
委員 (質問)	RTK 基地局というのは、佐賀市全体に設置するのか。
事務局	平坦地域ではGPSなどの電波が入りやすいため、位置情報の誤差が大きい中山間地域での導入を中心に支援を考えている。
委員長	将来像について、A案「みんなで育て未来につなぐ、魅力あふれるさが農業」、B案「魅力と活力のある持続可能な農業“さがし”」、C案「農の絆で次代につなぐ魅力あるまち さが」の多数決を採りたい。
委員長含む委員	A案：3票、B案：2票、C案：4票
委員長	将来像については、C案と決定したい。 (異議なし)